

《2024年6月 公開サロン（通算332回）報告》

2004 総会後の意見交換会

ーサロン 2002 の事業と組織を考えるー

【日時】2024年6月15日（土）16：20～17：30

【会場】千代田区平河町二丁目16番1号平河町森タワー12階事務所およびオンライン（Zoom）

【テーマ】サロン2002を語ろう！ー2024年度のスタートにあたって

【参加者（10名）】◎はNPO会員、○は会員外のファミリー

<対面（7名）>

◎熊谷建志（NPOサロン2002理事）、◎関秀忠（弁護士／同理事）、

◎茅野英一（かながわクラブ／同監事）、◎中塚義実（筑波大学附属高校／同理事長）、

◎本郷由希（同理事）、○丸山実花（お茶の水女子大学附属高校）、○皆川宥子（会社員）

<オンライン（3名）>

◎小池靖（会社員／同監事）、◎齋藤宣彰（同理事）、◎土谷享（KOSUGE1-16／同理事）

【報告書作成】中塚義実

【概要（サロン2002通信6月号より）】

特定非営利活動法人サロン2002の通常総会（15：00～16：30予定）後に、恒例の意見交換会を行います。NPO会員だけでなく、多くのサロン2002ファミリーにお集まりいただき、「2024年度（以降）の事業」と「持続可能な組織のすがた」を考える場にできればと思います。

以下について意見交換します。もちろんこれ以外のテーマもOKです。

1. サロン2002の事業－何を、どのように行うか
2. サロン2002の組織－仲間の輪を広げ、深めるには？ 担い手は？
3. その他

【令和6（2024）年度 特定非営利活動法人サロン2002 通常総会】

1. 日時 令和6（2024）年6月15日（土）15：00～16：30（予定）

2. 場所 東京都千代田区平河町二丁目16番1号平河町森タワー12階事務所
およびオンライン（Zoom）

3. 決議事項

第1号議案 令和5（2023）年度 事業報告

第2号議案 令和5（2023）年度 決算 および 会計監査報告

第3号議案 令和6（2024）年度 事業計画

第4号議案 令和6（2024）年度 予算

第5号議案 役員の変更

【出席（8名）】

対面 ...熊谷建志、関秀忠、茅野栄一、中塚義実、本郷由希
オンライン ... 小池靖、齊藤宣彰、土谷享

【委任（11名）】 議長1名、中塚10名

井上俊彦（中塚義実理事長）、梅澤佳子（中塚義実理事長）、笹原勉（議長）、
嶋崎雅規（中塚理事長）、高原渉（中塚義実様）、橘和徳（中塚義実理事長）、
本多克己（中塚義実）、松下徹（中塚理事長）、守屋俊秀（中塚義実）、
柳井隆志（中塚義実）、山内直（中塚義実）

正会員23名のうち19名が出席（2023年は23/27、22年は21/29、21年は18/29）

【オブザーバー参加（1名）】丸山実花

参考）会員外のサロン2002ファミリーは、54名

サロン2002ファミリー（含NPO会員を含む全体数）は、
現時点で23+54=77名（昨年度は28+61=89名）

2022～2023年度役員

理事：春日大樹、熊谷建志、齊藤宣彰、関秀忠、土谷享、中塚義実、本郷由希、本多克己

監事：茅野英一、小池靖 顧問税理士：松下徹 事務局：守屋俊秀、守屋佐栄

I. サロン2002のあゆみと現状（中塚義実）

通常総会の審議が終わりました。ここからは、限定サロン＝意見交換会の導入となる部分について話をさせていただきたいと思います。

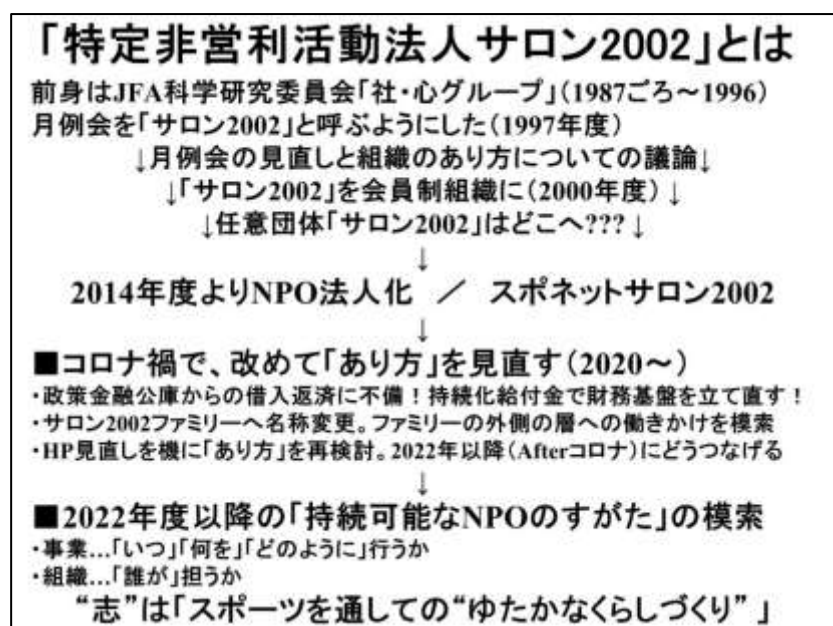
はじめに、サロン2002がどのようにはじまり、どのような過程を経ていまに至るのかをざっとおさらいし、そのうえで現状と課題、今後の方向性について、テーマを絞って意見交換します。年1回はこういうことを確認する必要があると考えています。

■サロン2002の前身

日本サッカー協会（JFA）にかつて科学研究委員会がありました。そのサブグループの一つに、社会学や心理学からアプローチする「社心グループ」があり、小中高の夏の全国大会出場チームの活動実態調査などを行っていました。そのグループが定期的に勉強会をするようになったのが、私がいまの職場に着任した1987年ごろです。道路を隔てたお茶の水女子大学の杉山進先生の研究室で、勉強会を不定期に行うようになりました。

本日、総会からご参加の丸山実

花さんは杉山研究室の卒業生で、そういう意味ではサロン2002の原点とつながりがあるわけです。



サロン 2002 の前身の「社心グループ」は、もとはといえばサッカーの研究者の勉強会でした。

それが 1990 年代前後からサッカー界での大きな動きー2002 年 FIFA ワールドカップ招致活動とプロサッカーリーグ創設ーの中で、勉強会にいろいろな人がやってくるようになりました。ここへ来れば「人と情報のネットワーク」が得られます。勉強会は毎回盛況で、体育館脇の杉山研究室では収まらなくなってきました。会場は女子大学構内。いまほど警備は厳しくなかったものの、お茶の水女子大の南門からぞろぞろ入っていくので杉山先生も学内で何か言われていたかもしれません。

■「サロン 2002」としてのリスタート

1997 年度に入る少し前に杉山先生から、社心グループの名称と態勢を改めてどこか別のところで開催できないかと打診がありました。筑波大の仲澤眞さん（当時は帝京大学）らと相談し、「サロン 2002」の名称で 4 月からリスタートすることになりました。会場は筑波大学附属高校です。「サロン 2002 の月例会・月例サロン」は 1997 年 4 月から数えはじめ、今回で通算 332 回となります。

その後も節目節目でいろいろな議論をしてきました。サロン 2002 というのは月に一度の例会の名称だったのですが、そのうち組織名を表すようにもなります。はじめは参加費を徴収していませんでしたが、話題提供者にはそれなりのペイをした方がいいだろうということ、報告書もまとめたということ、そして通信費が実際掛かっていたことから、参加費を徴収することにしました。月例会案内はメールで送っていたのですが、FAX 受信しかできない方もおり、その人に届けるために通信費が発生していたのです。このほかにも運営面の課題や、多種多様な人材が集まるサロンの可能性をどう生かすかという観点から、サロン 2002 のあり方についてのさまざまな議論の場が設けられました。月例会の見直しと組織のあり方について話し合い、2000 年度から会員制組織になりました。

■NPO 法人サロン 2002 へ

2014 年度より NPO 法人化します。法人化したことでさまざまな助成金を受けることができ、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ (FLCC) などの事業主体となり、いまに至ります。ただ、toto については実際に入金されるのが事業終了後なので時差が生まれます。事業を行う上での運転資金の不足分は、政策金融公庫から借り入れていました。

こうしたさまざまなことから事務局の負担が増大してきます。借り入れ返済が滞り、大変なことになるそうだったときは、コロナの持続化給付金で何とか持ち直しました。運営はいつも綱渡りです。

■法人化のねらい

そもそも法人化のねらいは、当時感じていた課題と可能性をどう認識していたかによります。それは、①事務局機能を強化したい、②組織としての姿がみえるようにしたい、③事業の担い手となっていきたいということです。

去年の総会後の意見交換会と同じスライドです。事務局機能を強化したいと言いながら、なかなか実現しません。2022 年度に事務局員が退会する事態が生じ、一方で新しいシステムの導入もなかなか進まず、停滞しています。組織としての姿は、ホームページ

NPOサロン2002の“いま”

- ◆事務局機能を強化したい！
 - 法人化以降もボランティアの運営が続く
 - 「プロ意識を持ったボランティアとボランティア意識を持ったプロ」による手弁当運営
 - 事務局への依存傾向増(?) / コロナ禍による引継ぎ不備
 - 2021年度より理事と事務局の業務を明確化(財務等)
 - 2022年度中に事務局員「退会」。新システム導入も進まず...
- ◆組織としての姿がみえるようにしたい！
 - 他の組織との連携強化を図ることはできている(共催事業等)
 - totoの助成金を受けて新規事業に取り組む
 - 一般への認知度は低いまま。「サロン」の名称についての疑念?
 - HPの見直しとSNSの活用を検討中 / 「月例会」の見直し等
 - 2021年度中にHP改修。SNSの活用を志向するが...
 - 月例サロンは「公開」と「限定」に。対面を導入しハイブリッドに...
- ◆事業の担い手としての“サロン2002”となっていきたい！
 - 月例会、公開シンポジウム、出張サロンなど、これまでやってきた事業は継続
 - 収益事業とはならない(宣伝不足)
 - “ゆたかなぐらし”を志向する良い活動の担い手になりたい
 - DUリーグの事務局: サロン2002が担いすぎた → 2021年度より離れる
 - 「リサイクルプロジェクト」「スキッププロジェクト」を担う → 停滞中
 - 「オリンピック教育」「U-18フットサル」を他の機関と連携して進める → 継続中
 - 「U-18FLCC」と「公開シンポジウム」をより充実させたい!

の改修などで一部達成されましたが、SNSの活用には至りません。月例サロンのあり方についてはかなり整理されたと思います。

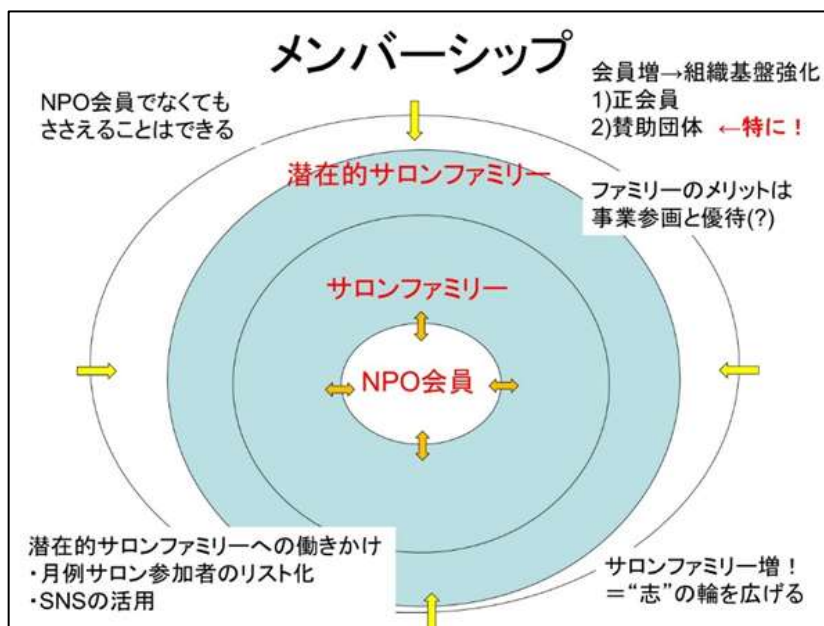
事業の担い手としてのサロン2000については、助成金を受けて大きな事業に取り組むことができるようになりました。大きな成果です。U-18FLCCと公開シンポジウム報告書『遊ASOBI』の発行ですね。ただしtotoは5分の4の助成なので、どうしても持ち出しが出ます。ここで赤字が出ているのは仕方ありませんが、より充実させていきたいというのがいまのところです。

■メンバーシップ

NPO法人サロン2002が運営するネットワークを、以前は「スポーツ文化ネットワークサロン2002（通称スポネットサロン）」という言い方をしていましたが、いまでは「サロン2002ファミリー（通称サロンファミリー）」と呼んでいます。NPO会員も含んだ呼称です。サロンファミリーは、“志”に賛同し“Give and Take”を受け入れる“同志”であり“仲間”です。

ホームページのリニューアルの話のときに、サロンファミリーの外側の層へいかに働きかけるかが議論のテーマとなりました。徳田さん、熊谷さん、本郷さんを中心に「情報発信プロジェクト」を進めてもらう中で出てきた話です。

右図は毎年見ているものです。NPO会員がコアの部分にいて、それを包含するサロンファミリーが外側にいます。“志”に賛同し、“Give and Take”の関係でいられる仲間です。サロンファミリーの輪を広げていきたいと考えます。ファミリーのメリットは、事業への参画と各事業への優待。例えば参加費が無料になるなどです。



NPO会員でなくても、組織としてのサロン2002をささえることはできます。だからNPO会員と会員外のサロンファミリー間の行き来はあっていいと考えます。去年はNPO会員登録していたけど、今年は時間が取れそうにないので4,000円のサロンファミリーとして登録するなどです。昨年度まで事務局長だった春日さんが、2024年度は会員外のサロンファミリーになっています。逆に橘さんは、サロンファミリーからNPO会員になりました。こういう行き来はあってよいでしょう。

そして、さらにその外側にいる「潜在的サロンファミリー」へのアプローチをしっかりとやっていきたいなというところです。ホームページのリニューアルの際に、「誰にどのような情報を伝えるか」が話題になり、このような議論になりました。なかなか具体化には至らないですね。

■サロンファミリーの「約束」と「行動規範」

2022年2月に「サロン2002ファミリーの約束」を改めて決めました。「サロン2002ファミリーとは、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げるNPOサロン2000が運営するネットワークです」と定義づけ、「“志”に賛同する方であればどなたでもファミリーの一員になることができます」と謳っています。

「サロン 2002 ファミリーになるには」では、個人情報の提供と会費の納入を記しています。“Give and Take”ということですが、最低限、これはやってくださいということです。

「サロン 2002 ファミリーになれば」のところでは、

- 1) “同志”とつながることができます
- 2) 情報が得られます
- 3) NPO サロン 2002 主催事業の参加費が優遇されます
- 4) NPO サロン 2002 主催事業に関わることができます

ということを挙げています。「継続する／退会する」方法も書かれています。

そして最後に、「サロン 2002 ファミリーはゆるやかなネットワーク組織です。“志”の実現と“組織”の充実のために、ファミリーにはサロン 2002 に対して、また社会に対して“Give and Take”の姿勢を求めます」と明記しています。サロン 2002 ファミリーとは何かを明示する文書です。



サロン 2002 ファミリーの約束 (2022年2月22日)

◆**サロン 2002 ファミリーとは**
スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げる、特定非営利活動法人サロン 2002 (NPO サロン 2002) が運営するネットワークです。『サロンファミリー』と呼ぶこともあります。
“志”に賛同する方であればどなたでもファミリーの一員になることができます。

◆**サロン 2002 ファミリーになるには…**

- 1) 個人情報の提供
連絡を取るための以下の情報を事務局にご提供ください。
・氏名 ・Eメールアドレス ・住所 注) 電話番号は任意です。
- 2) 会費の納入
年会費 4,000 円 (学生は 2,000 円) をご入金ください。

◆**サロン 2002 ファミリーになれば…**

- 1) “同志”とつながることができます
年齢、性別、国籍、身分や立場など、あらゆる壁を超え、“志”に賛同する方々が集まるのがサロン 2002 ファミリーです。“同志”とのつながりは、このネットワークの最大の財産です。
互いをリスペクトしながら、このネットワークを活かしてください。
- 2) 情報が得られます
・ 月例サロンの情報などが、『メールニュース』として送信されます。
・ 公式メーリングリストに登録され、月例サロンの情報などが『サロン 2002 通信』として定期的に通信されます。“同志”であるサロン 2002 ファミリーへの情報発信も可能です。
・ サロン 2002 ファミリー限定の Slack に登録することができます。Slack 内で互いに自己紹介し、トピックごとに意見交換をすることができます。
- 3) NPO サロン 2002 主催事業の参加費が優遇されます
・ 月例サロンは参加費 1,000 円 (オンラインの場合 500 円) 必要ですが、サロン 2002 ファミリーは無料です。
・ 公開シンポジウム等、NPO サロン 2002 が主催する事業における参加費が優遇されます。
- 4) NPO サロン 2002 主催事業に関わることができます
NPO サロン 2002 では“志”の実現に向けて様々な事業に取り組んでいます。それらの事業にスタッフとして関わることができます。

◆**サロン 2002 ファミリーを継続する／退会するには…**
サロン 2002 ファミリーは年度単位のメンバーシップ制です。年度の途中で入会される場合、年度末まで有効です (1～3月のご入会は翌年度末まで有効です)。年度ごとに継続・退会の意思確認をさせていただきます。継続される場合は、3月末日までに翌年度分の会費をご入金ください。退会される場合はその旨を事務局にご連絡ください。

サロン 2002 ファミリーはゆるやかなネットワーク組織です。“志”の実現と“組織”の充実のために、ファミリーには、サロン 2002 に対して、また社会に対して“Give and Take”の姿勢を求めます。

また、2022年12月22日には「サロン2002行動規範」を定めました。「ちゃんと遊ぶ」ためのリスペクト宣言です。この背景もいろいろあるのですが、ひと言で言うと、みんな年をとってきたんです。新しい人が入りにくい状況の中で、お互いのことをちゃんとリスペクトしながら、ちゃんと遊べる組織にしていこうということを改めて考えた次第です。



“志”の実現のために最も大切なのは、「ちゃんと遊ぶための仲間どうしの心がまえ」だということです。サロン2002を始めた頃、私は若いあんちゃんでした。それがおっちゃんになり、じいさんになり、知らず知らずのうちに威圧感を、威厳とともに与えている可能性があります。私だけじゃないですよ。皆さんもそうになっていく可能性がありますよね。

自由なコミュニケーションを可能にするために、ここに書かれているような当たり前のことを改めて確認し、意識しながらやっていこうねということです。

ということで、限定サロンへの導入はここまで。いったん総会をおしまいにして、小休止を挟んで意見交換会に突入したいと思います。

■参加者からのコメント

中塚：総会はいったん終わりにします。ここまで参加された方は一言ずつ、コメントください。

土谷：予算計画の中で報告書の印刷費が大幅に減っていることが気になりました。次の限定サロンでいろいろとまたお話しできればと思います。

小池：茅野さんいろいろとお世話になりました。これからも教えていただかないといけないことがあるので、ご指導、引き続きよろしく申し上げます。

このあとの限定サロンには出席できませんが、監査のことを引き継いでいきたいと思っています。また個人的には、いつも参加させていただいているケーブルタンユースフォーラムには引き続き参加していきたいと思っています。先日、日本ケーブルタン委員会（CJPC）総会に初めて参加させていただきました。東京 2020 も終わりましたが、大事な活動をやっていると思います。サロン 2002 でも引き続きいろいろやっていきたいと思っています。これからもよろしく申し上げます。

齊藤：監査してくださった茅野さんと小池さん、本当ありがとうございます。顧問の松下先生には何度も何度も修正してもらって申し訳ないと思います。財務担当理事になって3回目の総会でした。短い間ですが勉強になりました。改めて会社の法人税務とNPOの違いがよくわかりました。小池さん、来年からお願いします。厳しくしていただいて結構です。

事務局が今後どうなるのかということが気になります。今回、支払いの問題でいろいろありました。春日さんがやっていたことをこちらで引き受けないと、あとで面倒くさくなってしまいます。誰に謝金が発生し、誰に払わないといけないのか。会費は口座管理で一元化し、会計の立場からすると非常にやりやすくなると思いますが、日常業務が増えてしまうと、いまはできても、今後誰か他の人がやったときに難しくなるのではと思います。うちの会社の経理担当にやっていますが、これ以上の業務になると、何かしらの金銭が発生しないと難しいと思います。このあたりを議題に上げていただければと思います。

茅野：いろいろありがとうございました。多少言葉が荒かったり、いろいろご迷惑かけたと思います。これからは優しく紳士的な小池さんなので、楽しくやれるのではないかと思います。いずれにしても、NPO 会員として残っていますので、何でも言ってくださって大丈夫です。今日は久々の対面で、限定サロンのあとに懇親会があるので、体調だけは整えてまいりました。

熊谷：皆さんお疲れさまでした。このあと高学年のサッカー大会があるのでこれで退室します。

連盟の総会や少年サッカーチームの総会などに関わっていますが、NPO サロン 2002 でやっていることが参考になり、いろいろ学ばせてもらっています。

提案として、事務局をどこに置くかの前に、事業ごとにまとめることが必要ではないかと思いません。各事業についてこれだけの収入と支出があったということを整理し、突き合わせが事業内で完結していれば、月例サロンの謝金未払いのようなことは起きないと思います。

本郷：サロン 2002 運営の年間スケジュール的な部分は、おそらく中塚先生の頭の中にはあるものの、それが各理事で共通認識として共有まではされていないのかなと思っています。いままではそれでも事務局担当の方の経験値で進められたのかなと思っているのですが、体制変更もあり、このままでは対応しづらいなと思っています。

役割ごとに担当者を置いていくのも大事だと思っていて、例えば熊谷さんが Web 公開などをやってくださっているの、僕は会員管理に関わるというのでもよいと思います。斎藤さんと連携して漏れがなくなるような仕組み作りも検討できると思います。経理部分での整理も必要ですが、会員管理の部分も整理が必要だと思います。

あとは、今年は映画ができるのを楽しみにしています。

関：私からは一点。新しく理事になられた橘さんからご挨拶をいただく機会を設けられなかったのは残念でした。今日のご出席がかないませんでした、どこかで設けられればよいと思いました。

あと土谷さんからご質問をいただいた件については、具体的に詰めた方がよいと思いました。貴重な意見ありがとうございました。また後ほどよろしく願います。

中塚：今日はオブザーバーとして丸山さんが参加してくださいました。

丸山：ありがとうございました。何もわからないまま突然ポンとこんな都会の真ん中に来てちょっとドキドキしています。どこの組織も同じでしょうが、話をお聞きしていて、やはり過渡期に来てるのかなと感じました。すごい人が来ています。楽しく一生懸命やっているところに人が集まるんだと感じています。今後ともどうぞよろしく願います。

中塚：ありがとうございました。ちょうど皆川さんが来られました。限定サロンから参加です。

皆川：限定サロンから参加します。よろしく願います。

II. 限定サロン＝意見交換会

「これまで」「いま」を踏まえて、「これから」についての意見交換

テーマ① NPO サロン 2002 の財務構造

テーマ② NPO サロン 2002 の組織と運営

テーマ③ 月例サロンと公開シンポ

中塚：テーマはこの3つです。テーマ①②についてはスライドを用いて説明したのち、これからどうしていくかについて意見交換します。テーマ③も、皆さんからアイデアやご意見をいただければと思います。17:30 ぐらいに終わられるように進めていきましょう。

■テーマ① NPO サロン 2002 の財務構造

中塚：財務構造の話です。一つ前の年度に戻りますが、2022 年度の総会時、NPO 会員は 29 名、会員外のファミリーが 67 名、あわせて約 100 名がサロンファミリーでした。賛助団体はありません。約 300 万円のお金を動かしながらいろんなことに取り組んでいました。2023 年度の総会時は 84 名。年度途中の入会者を含めると年度末は 89 名でした。NPO 会員が 1 名増え、会員外のサロンファミリーも 57 名から 4 名増えました。年度途中の入会者をもっと増やしたいところです。

2023 年度も、はじめは賛助団体はありませんでしたが、年度途中に甲文堂が入ってくれました。3 万円の会費をいただくだけでなく、シンポジウムの横断幕などを提供してくれています。

寄付金は筑波大蹴球部、成田先生の奥様ほか何件かいただきました。400 万に届く規模で 2023 年度は展開されました。

連休前後に予備監査をした時点では大赤字の恐れがあったのですが、toto助成金の未収部分が計上されていなかったただけでした。ほっとしました。それでも毎年カツカツでやっています。

スライドにあるとおり、申し出があつて退会された方が8名、手続き未了で退会扱いが6名おられます。おなじみの方もおられます。手続き未了で退会扱いは、うっかりミスでしょう。いろんな方法で連絡を取っていますが、どうしても漏れが出てきます。

申し出があつて退会された方には、それぞれ思いがあるでしょう。せめてサロンファミリーとしてつながってもらえたらよいのですが…。

宇都宮徹壺さんが退会されますが、サロン2002のWEBサイトには宇都宮さんの写真コーナーがあるので、このまま放っておくわけにはいかんと感じています。

次に、決算書からみえることです。ひと言で言うと、収支バランスが悪い。我々の基礎体力は、会員・ファミリーからの会費収入54万6000円です。これぐらいの規模の組織です。しかしいろんなことをやりたい。やるからにはお金が要るということで、toto助成を受けています。支出の5分の4助成なので、5分の1は自己負担です。事業規模が大きければ大きいほど自己負担額が大きくなり、その分を「基礎体力」で補っているのが現状です。基礎体力部分は、本来であれば組織の運営、管理費に回されるべきところですが、しかしたとえば人件費は発生させておらず、みな無償ボランティアでやっています。基礎体力のところを事業に回してしまい、アンバランスが生じているということです。先ほど熊谷さんや齊藤さんが指摘されていましたが、財務関連の業務が増えてくるのであれば無償ボランティアでは難しいでしょう。このあたりが大きなポイントになるかと思えます。

これまでは、いかにファミリーを増やすか、ファミリーの外側に広げるか、あるいは各事業で営業努力をしっかりとやって収入を増やそうと言ってきましたが、そもそも仕事への対価が払われないまま、ただ働きをしているのが現状です。サロンの業務は時給1,000円で計算することになっているのですが、コロナ前後から申請されない状態が続いています。問題ですね。

テーマ① NPOサロン2002の財務構造

◆サロンファミリーの現状

1)2022年度総会時 96名	3)2024年度
・NPO会員 29名	・NPO会員 23名
・会員外のファミリー 67名	・会員外のファミリー 54名
・賛助団体 なし	・賛助団体 1団体
・寄付金 個人数件	・寄付金 個人数件
経常収益 3,149,703円	※申し出があつて退会 8名
経常費用 3,018,163円	今横富士夫、宇都宮徹壺、三枝敬洋、染野 忍、
131,540円の黒字	中屋 晋、野田直広、濱本恒志、森 政憲
2)2023年度総会時 84名(→89名)	※手続き未了で退会扱い6名(年度末12名)
・NPO会員 27名(→28名)	池田 駿介、梅本 嗣、★北島 温子、田中 理恵、★安
・会員外のファミリー 57名(→61名)	松 幹展、柳 りこ
・賛助団体 なし(→甲文堂)	
・寄付金 個人数件(→25万円)	
経常収益 3,955,010円	
経常費用 3,846,475円	
108,535円の黒字	

2023年度 決算書からみえること

◆2023年の基礎体力

・NPO会員 10,000円×28名=280,000円	
・サロンファミリー 4,000円×59名分(61名)=236,000円	※学生2名、無料1名
・賛助団体 30,000円×1 = 30,000円	
	計546,000円

◆toto助成金(2024年4月17日確定)

・U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ事業 1,409,000円(70万円は概算払い)	
協賛金収入11万、参加料収入64万、自己負担金365,658円 ⇒ 合計2,524,658円	
・スポーツ文化について語り、発信する公開シンポジウム事業 816,000円(40万円は概算払い)	
事業収益(参加料等)136,000円、自己負担金266,814円 ⇒ 合計1,218,814円	

◆サロンファミリーを増やしていく！

◆ファミリーの外側に広がる層への働きかけとつながりを！

◆各事業に対する営業努力も！

■テーマ② NPO サロン 2002 の組織と運営

中塚：次の話につながるので話を続けます。組織と運営についてです。今年度、役員改選がありました。理事会では何度かお見せしていますが、サロン 2002 では 2000 年度から会員制を導入し、役員を置くようになりました。はじめは理事会ではなく幹事会と言っていました。代表者はずっと私で、代表代行幹事は高橋義雄さんでした。笹原勉さんに 1 年やってもらい、その後は本多克己さんに副理事長を務めてもらっています。徳田仁さんにやってもらったこともありました。

初期の役員には仲澤眞さんや、NEC の鈴木崇正さんがいます。社心グループ時代からのメンバーです。長岡茂さんは当時、鹿島アントラーズのスタッフでした。Jリーグ創設期の事務局員だった堀美和子さんも中核メンバーでした。そのあと宇都宮徹壺さんに入ってもらい、監査役に笹原さんや仲澤さん。小規模ですがしっかり運営されていました。

2000 年度から会員制を導入して何が変わったかということ、年会費を徴収するようになりました。また、誰がメンバーなのかを明確化し、年度はじめに立派な名簿を発行するようになりました。個人情報・自己 PR 満載のすごい名簿です。ポピュラー音楽学会の名簿を参考にしました。それぞれ何をしている人で、これから何をやりたいと思っているのかを会員仲間に表明するもので、会員同士がつながるのに役立つ意図がありました。大いに役立ったと思いますが、いまでは作れませんね。

この名簿をまとめるのは大変でした。また、お金の出し入れも、金額は大きくはないけどきめ細かな作業です。このあたりから、いまで言う事務局、あるいは財務担当を置くようになりました。初代の経理兼名簿担当は川井寿裕さん。文部科学省のお役人で、toto 立ち上げの専門官・両角晶仁さんとともに動いていた当時の若手職員です。その後いろんな大学を回られ、2 年前には筑波大学の財務部長となり、私と同じ法人のえらいさんになりました。この再会にはびっくりしました。高橋義雄さんと 3 人で飲みに行きました。いまはどこかの大学法人で事務局長をされています。その川井さんが毎年、連休明けに 1 日休みを取って、サロン 2002 の財務と会員データを取りまとめてくれていました。


ホームページやメーリングリストの担当者を置くようになったのは 2004 年度です。それまでもプライベートな感じのホームページはありましたが、この年にリニューアルしました。本多さんが尽力してくれました。当時から、「プロ意識を持ったボランティア」と「ボランティア精神を持ったプロ」が必要と言っていたのですが、みなそのような感じでサロン 2002 の運営に携わってくれました。

2006～08 年までは川井さんの下に岸卓巨さんがついて、引き継ぎながら業務をこなしてくれました。この頃の岸さんは中央大学の学生です。小石川高校のサッカー部員だった頃から、DUO リーグの審判講習会の運営を、顧問に代わってやっていましたが、大学生になってサロン 2002 の事務局員となり、大学院生時代もずっと岸さんが事務局を担ってくれました。2011 年からは、これも中央大学の室田さんが、学生か院生のときに関わってくれました。

この頃、少しずついろんなことが整備されていきます。スライドの右下に、ちょっと見にくいけど資料を添えましたが、サロン 2002 はどこへ向かうのかという話をしました。「社会性と開放性」「会員負担と組織力」をいう軸で今後の方向性を示してくれたのは両角さんです。月例会でも何度か取り上げ、サロン 2002 の方向性を議論しました。いまにつながる議論です。

テーマ② NPO サロン 2002 の組織と運営					
		2000	2001	2002	2003
役員	代表者	中塚義実	中塚義実	中塚義実	中塚義実
	代表代行幹事	高橋義雄	高橋義雄	笹原勉	本多克己
	幹事	鈴木崇正	鈴木崇正	本多克己	笹原勉
		仲澤眞	仲澤眞	内田正人	内田正人
		長岡茂	長岡茂	長岡茂	長岡茂
堀美和子	堀美和子	宇都宮徹壺	宇都宮徹壺		
監査役	笹原勉	笹原勉	仲澤眞	仲澤眞	
会計兼名簿	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	川井寿裕	
ML 管理人	浦田龍治	浦田龍治	浦田龍治	浦田龍治	
HP 担当	本多克己	本多克己	本多・浦田綾女	本多・浦田綾女	

2000 年度より会員制導入
・「会費」の管理と「名簿」の発行
→初代事務局長は川井氏
・「ホームページ」の設置→本多氏が尽力



その後もサロン 2002 のあり方については何度も議論を重ね、最終的にはNPO 法人としてリスタートしました。

2014年の法人化以降、理事会メンバーあまり変わりばえがしないなどと思いつつも、2年に一度の改選期にはとこところ入れ替わっています。

事務局のところは大きく変わってきました。法人化当初、岸さんは事務局担当理事として理事会構成員でしたが、2016年からは職

場の勤務規定の都合で理事から外れることになります。それでも事務局長はしばらく務めてくれましたが、少しずつ次の方に引き継ぐようにしていました。ところが2020年のコロナのパンデミックでいろんなことがストップします。岸さんもアフリカ支援のA-goalプロジェクトに深くかかわる中でサロン2002に以前ほど時間をかけられなくなります。2020年から齊藤さんに財務担当理事になってもらい、日常的な経理は齊藤さんの会社で経理を担当されている石塚さんがやってくださっているということです。

コロナ禍で、顔を突き合わせての業務の引き継ぎがほとんどできないまま、齊藤さんもはじめのころは大変だったと思います。この状態が2020~21年度と続き、岸さんがいよいよ理事会から外れるという2022年度に、春日さんが事務局長を担ってくれることになりました。2022~23年度とやってもらったけど、春日さんも本業や家庭の事情があって回らなくなってきたのが最近までのことです。

並行して進めてきたのが、黄色でマークされたところです。人が担うだけでなく、自動化を進めていこうということです。これはホームページリニ

事務局は川井氏から岸氏へ

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	担当	2013	
理事	理事長	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	結 括	中塚義美	
	副理事長	本多克己	本多克己	本多克己	徳田 仁	徳田 仁	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	本多克己	
	理事	菅原勉	菅原勉	菅原 仁	本多克己	本多克己	田中俊也	田中俊也	田中俊也	田中俊也	田中俊也	菅原 勉
		田中俊也	田中俊也	田中俊也	田中俊也	田中俊也	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志
監事	監事	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	阿部博一	阿部博一	嶋崎雅規	嶋崎雅規	嶋崎雅規	
	監事	宇都宮徹也	宇都宮徹也	宇都宮徹也	麻生征宏	麻生征宏	高橋義雄	高橋義雄	高橋義雄	高橋義雄	高橋義雄	
	監事	高橋義雄	高橋義雄	高橋義雄	齋藤健司	齋藤健司	齋藤健司	齋藤健司	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	
	監事	川井寿祐	川井寿祐	川井寿祐	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	
運営委員	会計・名簿担当	川井寿祐	川井寿祐	川井寿祐	川井寿祐	川井寿祐	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	
	会計・名簿担当	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	
	ホームページ担当	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	
	事業担当	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	高田敏志	

規約を整え「理事会」設置 川井氏から岸氏(学生)へ そして法人化へ

法人化以降

NPO法人サロン2002	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
理事	理事長	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美	中塚義美
	副理事長	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉
	理事	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	安藤裕一	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉	菅原 勉
		岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣	岸 卓臣
監事	監事	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一
	監事	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一
	監事	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一
	監事	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一	菅野英一
事務局	事務局	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹
	事務局	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹	春日大樹

法人化当初、岸理事のサポートには春日氏(学生・院生)
2016から岸事務局長。サポート役には優秀な学生・院生
2020から財務担当を齊藤理事が担う。しかしコロナ禍で...
2022から春日事務局長。見直しを図るが...
2024から「会費ペイ」導入。 ※Peatix導入は2021ごろ(?)

ユーアルの情報発信プロジェクトの中でも言われていたことですが、熊谷さん、本郷さんを中心に進め、2024年度の会費納入手続きから「会費ペイ」というシステムが導入されました。その少し前に、月例サロンの申し込みと参加費徴収に Peatix を用いるようになっていました。

ということで、ここまでの流れをざっと確認しました。

これらを踏まえて、これからどうするかということを中心に意見交換しましょう。どなたからでも構いません。

本郷：会費ペイの導入で効率化された部分が多くあるのですが、実際に作業してみるとこまごまと面倒くさい作業がいろいろありました。おそらく春日さんも岸さんも1人でそれを抱え込んでいたのだろうと想像しています。膨大な仕事量があったのだらうと思い、それを自動化できればと思っていましたが、会費ペイ導入後でも人の手がかかることがけっこうあるのだなと感じています。

例えばメールでバラバラ来るよりは、フォームで送ってもらう方が楽にはなりますが、督促などは名簿を突き合わせて対象者を割り出して連絡というように、人の手がかかる部分が当初想定よりもあることが分かりました。そのほかにも、会員としては継続だがメールアドレスが変更されていて、名簿上での名寄せなど、実際にやってみて見えてきたタスクがいろいろとありました。タスクそのものはそこまで複雑なものではないですが、年度末の仕事が立て込む時期と重なったりすると、厳しいときもあるかなと思います。例えば時間的な猶予として1ヶ月の間にこれだけやっておくような感じだといいいのですが、「絶対にこの日まで！」というような締め切りがあったりすると対応が難しい面もあるかなと思いました。

とりあえず今回やってみた記録はつけておいて、誰かにそれを引き継ぐようなことができればいいかなと思っています。解決策という感じではりませんが、事務局については今年度も特定の人はいないようなので、ちゃんとやらないといけませんね。

その他には、春日さんができなくなった分、現状では中塚さんがほぼすべてをやっている、それでいいのか問題もあって、非常に難しいところです。中塚さんの学校の仕事が少なくなっていくと、事務局を中塚さんがやっていくのは自然にできそうな気もするのですが、法人化のときに話していた議論とは反対に向かっているように思います。そこも悩ましいなと思いつつ、現実問題それしかないという気もしています。

中塚：こんな話になったときに、本多さんが言っていたけど「シニア層の再活用」ですよ。その通りなんですよ。

本郷：今までたぶん大学生ぐらいの人が手伝ってくれていたと思いますが、下の年齢の人にやってもらうのは良くないのではという議論があって、いま行き詰っているところですよ。

中塚：皆川さんがやってくれていた2018~19年のときは大学生？大学院生？

皆川：大学院生ですね。たぶん皆さんより時間の自由度があって、例えば銀行への振り込みとか、学生だったら行きやすいので、支払いに行ったりしていましたね。学生がやりやすい業務、時間があればできること。たとえばエクセルに入れることなどは学生が適任なのだと思います。

中塚：皆川さんの後からコロナになるわけですよ。それでいろんなことがガラッと変わった。大もとは変わってないんだろうけど。

本郷：皆川さんの能力が高かったんだろうと思います。岸さんもそうだと思いますけど。

皆川：ちゃんと事務局長がいて、何をするか指示があるので、こっちは逆に動くだけでした。

本郷：たぶん、いざ大学生のどなたかにお願いしようとなると、その人によろしくってなっちゃうから、そうなる負担感が大きくなるでしょうね。

中塚：岸くんがサロン 2002 の事務局を担うのが難しくなってきたと言ってきたのは、指示を出せないぐらい余裕がなくなってきたときですね。それまでは彼も、本業と家庭とサロン 2002 でバランスを取りながらやってくれていたけど、本業+アフリカ支援と子育てが加わって回らなくなってきたんでしょう。それで皆川さんや春日くんへの指示が遅れてしまうようなことが何度かあって、その一つが政策金融公庫の支払い遅れに繋がったと言えるでしょう。続けられないので次の事務局長を考えてほしいとなっていたんです。

皆川：古いと思うんですけど、フォルダの中に、事務局が何月に何をやるというのがあったと思います。今でもそれを見ながら皆さんやっているのでしょうか。

中塚：それもネックの一つで、サロン 2002 の資料がドライブの中で整理されていない気がします。

本郷：過去にまとめたものをもとに春日さんが新しくまとめ直そうとくださったのですが、それが途中で止まっちゃったので、いまはよりどころなく、たぶん中塚さんの頭の中の年間スケジュールの記憶をもとに動いていると思います（笑）。

中塚：頭の中プラス、ハードディスクの中にあるんだけど、それは膨大な資料なんです（笑）。

本郷：それも皆が見られるとこに置きたいですね。

中塚：いらんものもたくさん入っているから、いらんものを削除して、いるものだけドライブに残す作業をどこかでやらなあかんと思う...

本郷さんはこないだから Slack でのやり取りをもっと重視しようと言っていたけど...

本郷：Slack にファイルも置けますが、たぶん春日さんか岸さんが途中までは Google ドライブに保存場所を統一しようとしていたと思います。誰かのハードディスクじゃなくて、そこに移動させていきたいですね。過去のを全部綺麗にやらないといけないかというところでもなく、とりあえず今年来年と回していくために必要なところを残せばいいでしょう。いるものだけで十分だと思います。

関：中でも重要なのはスケジュールだと思います。今から何をいつやるのかというのがあらかじめわかっていたらと思います。

中塚：少し話は変わるけど、会費ペイ導入は画期的ですね。フォームを使って管理するのも便利だと思います。けど、例えば今日の出欠表にしても、結局は誰かがまとめるんです。エクセルの横長の表だと見にくいから。それはこちらでやっているわけです。どんなやり方しても、おそらく誰かが何かししないとわかりやすくないという気がしていて、働いた人にペイする考え方の方がホンマはエエんやろうと思います。

本郷：仕事が来ると言っても、すごい急ぎのようなものだとプレッシャーがかかってくると思うんです。事務局を学生の人に手伝ってもらうというのは、いまの段階では僕はあまり積極的にやらない方がいいと思っています。総会の途中でも話していましたが、おじさんたちが年の離れた人をお願いするのは良くない空気になりがちだというのがここ数年の反省としてあるので。やってくれる人にとってはやらされている感が出てきて、健全ではなくなりがちなのではと思います。

でもだいがやることは減ったんじゃないですかね。中塚さんは全部やってくれていますけど。本当に必要なものだけに絞って、やらないことを決めるのもいいかもしれません。例えばきれいにまとめるというのもやめて、見にくい表のままでもいいのかもしれない。みんなここを見ればわかるし...

中塚：土谷さん、ここまでのところで何かご意見あります。

土谷：ネットが不安定で途切れ途切れになっていましたが...。例えば月例会の準備とか、演者への支払いとか、動いてくれた人に対してリスペクトの意味も含めて支払いをしていくのはすごくいいことだと思います。けどそういう小さな気遣いが発生する小さな事業がいっぱいあるので、その気遣いを発動させる中心的人が必要で、それが中塚さんということになっていると思うんです。結果的に、小さくても業務が増えている状況だと思うんです。そこら辺がいつも気になる場所ですね。

なので、月例会の数を減らすとか、季節ごとに集約していくとか。イベントの規模はあんまり関係ない気がするんですよ。

中塚：齊藤さんは財務と事務局の話在先ほどされていましたが、ここまでのところでどうですか。

齊藤：月例サロンの謝金未払い問題を通して、今回特に思い知ったことがあります。どういう月例会が起きたのかがわからない。これは私の怠慢でもあるんですけど、メーリングリストに出てきたメールは、正直言って全部は見えていません。こういう月例サロンがあったということはわかって、これが支払われてなかったというのが後になって出てくる。

最初の方に言いましたけど、本来は事務局と会計が一体化していないと難しいのかなと思います。たぶん岸さんのころは、事務局が会計も一緒にやっていたと思います。自分で管理して、自分でアクションを起こせるからミスは少ない。ただ、会社でもそうですけど、責任と権限をある程度分散しないと、お金の問題が発生するケースもあるので、一概に正しいとは言えないんです。いまのこの規模だったら、正直言って権限を1ヶ所に集中した方がやりやすいと思います。ただそれも、先ほど言った通り、無償でやることに関しての限界もあるし、皆さん本業があります。いろいろお話を聞く限り、かなりプロフェッショナルな意識でやっておられます。やるんだったらちゃんとやるからお金払ってくださいよ、となるのが当然なのかなと思います。逆に言えば、ちゃんと働いてないものはちゃんとやれないよというような意識が出ちゃうので、そうすると問題が発生するのではと思います。

私はいま石塚という弊社の従業員にほとんどやらせています。僕は全然欲しいとは思いませんけど、仕事の量がこれ以上増えれば、石塚の給料を上げるなり何かしないとちょっと悪いなというところはあります。そのあたりを検討していただけるのであれば、仕事を増やして一本化するのもやぶさかではないと思います。私も工夫しますけど...。以上です。

茅野：今回の監査をやっていくつか感じた点があります。いま齊藤さんが言われたことで言うと、事業を起こしますよね。それはメールで流れますが、プロトコルが一票で整理されていない。つまり、月例サロンはこのテーマでありますということは中塚さんから流れます。これは会員やファミリーに対して集まってくださいというアナウンスとしては何の問題もないんです。でも事務としては、普通の企業や役所がやってるように、最初にここで日時・会場を決定し、演者は誰々でと言った瞬間に支

払いが発生し、誰が払って、いまだと現実には源泉やった上で払わなきゃいけない。源泉も給与で払うのと、法人に支払調書で払うのと二つ、これを分けなきゃいけない。誰が演者に対して口座を受け取るか、ここの流れを1枚のチャートにする必要があるというのを感じました。その1枚のチャートをエクセルで作れば良いと思います。起点は中塚さんか、または月例サロン担当だと思うんだけど、そのチャート（エクセルの表）を回しながら、どんどん書き込んでいくと出来上がるというようなプロトコルチャートを作っていく必要があるということ、今回監査やっていて感じました。

そうすると、単純化されて、齊藤さんとこの石塚さんは、支払いが回ってきたところから動けばよくて、月例サロンが何をやってようが関係なくて、終わったからこれを払ってねっていう、この部分だけ来てくれれば良いわけですよ。中塚さんが企画するのか、事務は誰がするのかというのはあるけど、演者を頼んだときには口座と、支払いが必要なのか必要でないか、給与なのか支払調書なのかということ、依頼書の中に明記し、帰ってから返送してもらうか、その場で書いて返してもらうかというのが必要ですね。演者は誰々に決まりました、項目はこうですね、概要をいついつくださいというメールのやり取りとは別に、事務的にそれを流して受け取って、Excelに貼り付けて、齊藤さんのところへ送り込むと。こういう流れを作らないといけません。

齊藤さんが言われた通り、膨大なメールの量が飛び交っていて、チェックしなきゃいけないと思ってチェックしても、公開サロンの話なのか限定サロンの話なのか、私が登場するのかしないのか。こうしたことを一つずつ吟味していく。どこをチェックしているかもわからないというのがいまの状態です。齊藤さんが言われたように、メールは開けるけど見てないっていう状態にならざるを得ない。石塚さんの方も、単純化されれば、支払いが発生するかどうかともすぐにわかってどんどん払えるのに、単純化されていない。今回一番感じた1点です。

あと2点あるんですけど、とりあえずこの1点を指摘します。齋藤さん、感想ください。

齋藤：完璧です。ソリューションまで全部出していただいてありがとうございます。そうなんです。アナログのやり方でもいいので。追加で言うとしたら、何かのフォーマットは欲しいですよ。月例会があったなら、誰が演者、支払い口座、住所など。最終的にまとめるのはこっちでやります。会社の稟議書じゃないですけど、アナログな形でもいいのでフォーマットがあれば助かります。

中塚：わかりました。そういうのは以前やってたような気もするんだけど。

皆川：演者の人に書いてくださいっていうふうに。

茅野：あの頃は対面だったから、そこにぼんと渡して書いてもらっていたんですよ。

皆川：その電子化が必要だったことですね。

茅野：紙の様式は残ってるんじゃないかと思うんです。膨大な資料の中に。それがはめ込んで最後は俺払ったぞって石塚さんがチェックっていう欄を作って、税務署もOKとかってあれば大丈夫です。

中塚：コロナの間にすっ飛んでしまっていた部分ですね。

齋藤：あと追加で言うのであれば、岸さんから引き継いだ時、どこの会社でもあると思うんですけど、経理が会社をマネージして営業はサポートに回るのか、逆に営業がマネージして経理はサポートだけに回るのかというパワーバランスのところ。前は岸さんが1人でやっていたから両方やって

いたと思いますけど、春日さんと一緒にやっていて、誰が、どちらが中心になって動いていくのかが見えなかったんです。特に去年。

将来どうなるか、どちらがいいのかはわかりません。次にやる人が、ここまでだったらお金くれないとやらないよって言うかもしれませんが、とりあえず僕の任期はあと2年だと思うので、2年間は無償で頑張るので、その間にある程度、一本化してがっちり固めておいた方がいいのかなと思います。それこそ会費の管理とか口座とかも全て含めて。と思っています。以上です。

茅野：続けて発言していいでしょうか。

中塚：続けてください。

茅野：いま褒められたんで、プロトコルというかチャートというかその表を回しながら全部埋めていくと、最後はカルテと同じで、終わったら事業1本終わりというのはご理解、ご賛同いただけました。

いまちょっと出たんですけど、岸さんの時代に「パワーバランス」って言われたけど、この問題で一番引っかかるのは、どこの団体も困っているのが会員管理なんです。サロンは会員を入れる入れないに関して問題はないけれど、普通は資格があって入会審査しなきゃいけない。審査するのは組織の幹部なんです。その結果、会費をもらって、入りましたからこの人は会員ですっていうのは経理なんです。これははっきり言って、パワーバランス的に下請け仕事にならざるを得ない。それもやはりチャートで、この人が入りました、住所はこれこれというのがあり、入金確認できました、そして返す作業をやらないと、入会したかどうか分からないということになるんです。

どこの組織もそうですけど、小さなところで1人でやっていけばいいんですけど、それはまず無理。入会資格の審査でサロンの一番面倒くさいのは、NPO 会員になったのかファミリーになったのか。これがわからなくて、入ったお金がどっちのお金なのかわからなくて会計処理で困る。しかも金額が倍でちょうど合うもんだから、ファミリーの会費を2年分振り込んだからNPO だろうってやっちゃったとか。これもやっぱり入会担当を誰がやるかは別にして、入会チャートに沿って動く。この人が入りました、住所はここ、口座はこれって言ったところで、石塚さんのところへ回って入金確認されたらもう1回戻ってくるっていうようなプロトコルを作らないと。経理からしてみたら、誰がいつ入ってきて、会員種別はどっちなのかが不明確なままメールのやり取りが進むからわからない。

パワーバランスというよりはプロトコルだと私は思っています。入会資格審査を理事会に上げるようなところは、資格審査通りました、会費が入りました、だからあんたは会員ですよとなってメンバーリストに入れます。という流れを。

本郷：会費ペイを導入したので、ファミリーなのか会員なのかは、その人がどれを選んだかで一元的に会員リストまでできるので、そこはたぶん楽になると思います。振り込みについても、会費ペイの画面上でクレジットカード決済したか、決裁情報を入力しているかまで分かるので、そこはたぶん楽にできて、石塚さんがタッチしなくてもよくなっています。

その後のメンバーリストやSlackへの追加は、僕が勝手に吸収しているので、その手間を明文化しないといけませんね。僕と熊谷さんのやり取りも、僕らはそれぞれ個別にどの部分を担えるかをみているだけなので。

中塚：サロン2002の場合は、入会が認められましたの次に、メンバーリストやSlackへの登録手続きが入ってくるわけです。それを誰がいつ担うのかを、茅野さんが言われたチャートの中に入れないといけませんね。

茅野：サロンに入会審査はないんですよね、

中塚：審査してないですね。変な人が入ってきたらそれは考えるだろうけど。

茅野：会費ペイの URL を渡して、ご本人がやればもうそれで会員になっちゃう。それでいいんですよね。そこも問題ない。

中塚：今回もありましたけど、ファミリーで登録したけど本人は NPO 会員のつもりだったというのがありますね。

本郷：複数登録してしまった方もいましたね。ここも登録時の仕組みで何とかできると良いですが、どうしようもなさそうですね。

茅野：本郷さんが言われるように確実に楽になってるはずなんで。最初のところで URL を教える人と、最後のところで ML にのっける人を入れておかないといけませんね。

■テーマ③ 月例サロンと公開シンポ

中塚：いまの話も尽きないところですが、もう一つ。話題提供だけになってしまうかもしれませんが、今年度の月例サロンと公開シンポについて意見交換しておきたいと思います。土谷さんからは「毎月やらなくてもいいんじゃないか」という意見がありました。以前もそういう話がありましたけど、これはこだわってやり続けたいと思ってますし、シンポジウムも二つやりたいと考えています。

今年度一つ目のシンポジウムはこのような形で準備が進んでいます。本日、3人目の演者と確認がとれました。WE リーグ理事で、女子サッカーのいたるところに関わっておられる小林美由紀さんです。女子サッカーの普及、女性が活躍できる社会の実現という観点からも面白いシンポジウムになると思います。

もう一つは 11 月に考えています。現時点では「筑波大学附属高校蹴球部の近・現代史」という仮テーマで考えています。取り上げたいのは、

育成年代のサッカーの指導現場で、この 20~30 年、どんなことが起きていたのかという話です。

今日はあまり時間がないので、とりあえずこんなことを考えているというアナウンスのみです。

月例サロンの今後について、7月12日までは確定しています。8月が公開シンポジウム、9月に U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの映像制作のことを取り上げたいと考えています。

土谷さん、この件についていまここでアナウンスしておくことありますか。

土谷：特にないです。9月で大丈夫です。

テーマ③ 2024年度の月例サロンと公開シンポ

◆2024年度の公開シンポジウム(案)

- 1) 8月1日(木) 神戸グリーンアリーナ「U-18女子フットサルを語ろう！」
 - ・2012年3月の公開シンポジウムのように...
 - ・現場の指導者や担い手たちが登壇。現場の声をJFAに届けたい...
- 2) 11月23or24 桐蔭会館「筑波大附高蹴球部の近・現代史からみえるもの(仮)」
 - ・1980年代後半からの日本サッカー界/スポーツ界の大改革
 - ・インターネットの整備/メディア革新とともに人々の意識も激変
 - ⇒ ユースリーグ、U-18フットサル、クラブ化などの取り組みを再検証
 - ⇒ 月例サロンのシリーズものとして取り上げる方がよい?
 - ⇒ ではほかに公開シンポのテーマは?

◆2024年度の月例サロンは...

- 4月18日 限定「サロン2002を語ろう」中塚ほか
- 5月9日 公開「大戦前の日本サッカー」中塚義実
- 6月17日 限定「総会後の意見交換会」
- 7月12日 公開「次世代支援について語ろう」磯和明
- 9月 公開or限定「U-18FLCCの映像制作(仮)」土谷享ほか
- 10月 公開「ソーシャルフットボールをめぐる(仮)」野村忠明

中塚：事前にメーリングリストやSlackで、私の方からもアイデアは随時出していきたいと思いません。少しずつムード作りをしてから9月に臨みたいですね。

土谷：わかりました。

中塚：8月1日の公開シンポジウムについては、現時点でこのようになっています。8月1日は木曜日で開始時刻も遅いのですが、実はこの日にグリーンアリーナ神戸で女子のU-18フットサル大会をやっているんです。女子はワンデー大会になっていますが、それが終わったところでやりましょうということなんです。

これらを取りまとめた案内文を用意しています。週明けに、まずはサロンファミリー向けに予告編をリリースしたいと考えております。ひと半月後なので、ホームページ経由の告知も開始したいところです。

おまけですが、これも本日皆さんにお送りしたトークショーの情報です。急に出てきた話ではありますが、NPOサロン2002で後援することにします。6月21日（金）につくば駅の会議室で、筑波大学の小井戸監督とジャーナリストの田村修一さんのトークショーです。私も行くつもりです。

もう一つおまけです。「第2回部活カフェ」。日本部活動学会の行事が8月25日

（日）に桐蔭会館であります。登壇者は朝日新聞編集委員の中小路徹さん。以前、「部活動を語ろう！」のシンポジウムで登壇してくれた方です。部活動学会員でなくても参加できます。

ということで、最後の方は駆け足になりましたが、全体を通して何かありますか。

皆川：事務局問題なんですけど、いままでの問題は、後継者を作っていない一極集中だったと思うんですけど、これから、誰でもできるようにしていくのか、それともずっといらっしゃる中塚先生やそういうコアな人に流していくのか、その方針を理事会で決めた方がいいんじゃないかなと思いました。

中塚：以前は、事務局員1人雇えるようにしようって言ってたんです。「岸くんの就職先に」と言ってたんだけどね、全然お金が回らない…。

最後に全体通しての感想を丸山さん、いかがでしょうか。

丸山：お金があるといいんですけどね。せっかくみんなが一所懸命やってるし、楽しい会が進み、続けばいいな、良い方向に進んでいくといいなと思うし、私なりに協力できることがあればいいなと思いました。ありがとうございました。

中塚：ありがとうございました。それではこれにて本日の限定サロンを終了いたします。どうもありがとうございました。

以上

(続きは焼き鳥屋で懇親会)